

総合工学委員会・機械工学委員会合同  
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会  
変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討小委員会

第3回議事要旨

1. 日時 2024 年 10 月 30 日（水）10：00～12：00

2. 開催場所 オンライン会議（Teams）

3. 出席委員（敬称略）

柴山 悦哉、辻 佳子、野口 和彦、藤井 健吉、平尾 雅彦、水野 毅、宮崎 久美子、  
澁谷 忠弘、田村 兼吉、松岡 猛、松尾 亜紀子（オブザーバー）

欠席者（敬称略）

浅間 一、須田 義大、中村 昌允、永井 正夫、西田 佳史、持丸 正明

4. 資料

資料 3-1 安全とリスク小委員会第 26 期第 2 回議事要旨案

資料 3-2 安全工学シンポジウム報告

資料 3-3-1 藤井「学際的リスク学の実学的側面」33\_SRA-E332

資料 3-3-2 日本学術会議工学システム安全小委員会\_資料 fuji

5. 議事内容

1) 第 2 回小委員会議事要旨確認 資料 3-1

一部の参加者の表記の修正を加えて確認された

2) 小委員会の体制変更 幹事の追加について

幹事の追加について議論の結果、現体制を維持する事に決定した。

また、松尾亜希子安全安心リスク検討分科会委員を本小委員会委員に追加すること  
について、分科会で承認を得る手続をとることが承認された

3) 安全工学シンポジウム報告 資料 3-2

安全工学シンポジウムにおける小委員会の発表について共有を行った

4) 話題提供 藤井委員 資料 3-3-1, 3-3-2

藤井幹事より話題提供として先進企業におけるリスクの捉え方、課題や行政の動き  
への対応等が紹介され以下の議論があった。

リスクアセスメントに関する複雑な仕組みの実施は、中小企業等では難し場合もある  
のではないかと。またの対策として規制が存在する。

企業は現代社会への責任から特に根拠に基づく合理的な判断、将来のありたい姿に向けて合目的な選択をする傾向があるが、将来のありたい姿をどのように分析（または調査）されるか、また、価値を脅かすものとしてあがっている技術の中で、コア技術の進化の部分に含まれている技術があるが、その位置づけについての議論がなされた。

さらに、複雑な技術体系に対するリスクアセスメントに関して、学术界と民間との関係に関しても議論が成された。

リスクを「守るべき価値の視点」で捉えたことや守れるべき価値が特定できるか等の議論がなされた。

5) 今後の予定について

今後、各委員から順次話題提供を行うこととし、次回は 2025 年 1 月で日程を調整し澁谷委員より話題提供をいただく。

以 上